

15. 鳥取県のでんかん地域診療連携事業の活動の概要 -2018年度を中心に-

鳥取大学医学部地域・精神看護学教授、てんかん診療連携協議会委員長
吉岡 伸一

まとめ

てんかん診療拠点機関である鳥取大学医学部附属病院にはいまだてんかんセンターが開設されていないが、鳥取県全域の医療機関とてんかん診療の連携を目指した活動を継続して実施した。

・県内のでんかん診療を担う一次診療機関を再調査し、52施設から回答があった。医療機関名や診療可能な項目などをHPに掲載し、だれでも閲覧可能とした。

・てんかん治療医療連携研修会で症例検討会を開催した。

・みんなで考えよう地域福祉～知って安心、てんかんのこと～という市民公開講座を開催し、また、ベアテル150周年記念展を鳥取大学医学部附属病院外来ホールで開催し、同時に院内コンサートやてんかんに関する講演を行い、てんかんの啓発を行った。さらに、患者・家族のためのてんかん講座を開催し、てんかんを知り、うまく付き合うための知識や理解が深まった。

・コーディネーター1名を週4日間、診療拠点機関に配し、電話によるてんかんの相談活動を継続して実施した。相談件数は83件で、相談者は患者、家族からだけでなく、地域、行政・福祉、医療機関からもあり、また、県外からの相談もあり、徐々にだが、相談事業が浸透してきている。

1. 概要

鳥取県内にはてんかんセンターが未だない現状にある。そのため、①県内のでんかん診療をレベルアップさせ、てんかん診療を担う医療機関との連携を強化させることが重要課題である。また、②県内をはじめ、ひろくてんかんに関する継続した相談体制の確立が必要になる。さらに、③てんかんに関する啓発活動も行っていくことが求められている。

2017年度から2018年度現在まで、本事業をもとにこれら3つの活動を実践してきた。

・2018年、てんかん患者に対する医療機関情報の再調査

・2018年1月17日、てんかん治療医療連携研修会～症例検討会～

・てんかん相談事業

・2018年3月10日、市民公開講座「みんなで考えよう地域福祉～知って安心、てんかんのこと～」開催

・2018年7月3日～7月16日、ベアテル150周年記念展&鳥取県障がい者アート展&院内コンサート・講演会

・2018年11月3日、患者・家族のためのてんかん公開講座「てんかんを知り、うまく付き合おう」

2. てんかん地域診療連携事業

1) てんかん治療医療連携協議会

2017年度第2回治療医療連携協議会（以下協議会）を2018年3月10日に開催し、2017年度の事業活動を総括した。てんかん治療医療連携研修会を東部・中部・西部の3会場で開催した。2016年度より、3年間、研修会を開催し、毎回、異なる参加者がおられ効果を感じることができた。2018年度には各地区で事例検討会開催に向けた話がされた。てんかん診療を行っている医療機関でも常時、

相談する場が必要である一方、遠方の医療機関ではてんかんに詳しい医師がいないため、医療者向けの啓発活動も必要になる。また、一般市民向けに、てんかんのことを広く分かってもらうための講演会の機会を設けていく。相談事業活動の継続とともに、相談体制の中に当事者によるピア活動も並行していったら良い、などの報告があった。

	平成29年5月	月	月	月	平成30年2月
診療拠点機関(鳥取大学附属病院)	病院内審議会				病院内審議会
てんかん治療医療連絡協議会	第1回開催(TV会議)				第2回開催(TV会議)
研修会	東部・中部・西部地区の三か所。事例検討を含めた研修内容を実施予定。				
ホームページ作成・編集	診療拠点機関(鳥取大学附属病院)にて編集・保守・管理				
患者・家族の相談事業	相談体制の拡充(行政機関、公共機関、教育機関、地域企業等にリーフレット、ポスターを統配布)				
診療ネットワーク構築					
啓発活動	バーテル150周年記念展を鳥取大学附属病院内にて、鳥取県障がい者アートと共同開催。				

2018年度第1回協議会を2018年28日に開催。委員の交代、年間スケジュールの事前調整、コーディネーター1人が辞めたことによる相談体制の変更、相談体制の拡充、治療体制と医師向け研修、市民への普及啓発活動、てんかん診療拠点機関の患者動向、今後の活動に向けた話がなされた。なお、第2回協議会を3月に開催予定である。

2) てんかん診療機関における連携体制

・2016年度に鳥取県内の医療機関に対して調査票を送付し、てんかん診療を担う医療機関の調査を行った。2018年度に再度、鳥取県内の医療機関を対象に調査を実施した。2016年度は47施設であったが、2018年度は52施設(東部22施設、中部7施設、西部23施設)(病院26施設、医院・クリニック等26施設)からてんかん患者の診療が可能であるという結果が得られ、HPに掲載した。

医療機関名	診療科名	医療機関名	診療科名
鳥取医療センター	神経内科、小児科、精神科	新田内科クリニック	神経内科
鳥取県立中央病院	精神科、小児科、神経内科、脳神経外科、救急科	宮石クリニック	内科、神経内科、心療内科
鳥取市立病院	脳神経外科、小児科	赤碕診療所	内科、小児科
渡辺病院	神経内科、心療内科、精神科、内科	鳥取大学医学部附属病院	脳神経外科、精神科、脳神経小児科
鳥取赤十字病院	神経内科、小児科、精神科	高島病院	脳神経外科、脳神経内科
鳥取生協病院	神経内科、脳神経外科	山陰労災病院	脳神経外科、神経内科
上田病院	精神科	博愛病院	神経内科、小児科(脳神経小児科)
尾崎病院	神経内科	米子医療センター	小児科
下田神経内科クリニック	神経内科、内科	皆生温泉病院	脳神経外科
北室内科医院	内科、呼吸器内科	真誠会セントラルクリニック	脳神経内科
おおたけ脳神経・漢方内科クリニック	脳神経外科、神経内科、漢方内科	医療法人社団いしだ心のクリニック	精神科
医療法人社団ひまわり内科クリニック	神経内科	おおの小児科内科医院	小児科
せいきょう子どもクリニック	神経小児科	さくま内科・脳神経内科クリニック	脳神経内科
乾医院	内科、小児科	松田内科クリニック	内科、神経内科、小児科
森医院	内科、小児科	弓場医院	内科、小児科
加藤医院	内科、循環器内科、消化器内科、外科、小児科、整形外科	永原医院	内科
鳥取市佐治町国民健康保険診療所	内科	養和病院	精神科
加藤医院佐治出張診療所	内科、循環器内科、消化器内科、外科、小児科、整形外科	鳥取県済生会境港総合病院	神経内科、精神科、脳神経外科、小児科
岩美病院	内科、小児科	医療法人岡岡小児科医院	小児科・アレルギー科
藤田医院	内科	竜ヶ山こどもファミリークリニック	小児科
岸本内科医院	神経内科、内科	法勝寺内科クリニック	内科
智頭病院	神経内科、小児科	大山リハビリテーション病院	内科、精神科、リハビリ科、整形外科
鳥取県立厚生病院	精神科	伯耆中央病院	脳神経内科
野島病院	脳外科、精神科、神経内科	小谷医院	内科
藤井政雄記念病院	神経内科	日南病院	内科
清水病院	神経内科	日野病院	神経内科

・てんかん診療拠点機関である鳥取大学医学部附属病院にてのてんかん患者数を調査した。

	患者数	初診数
2017年度	1860	262
2018年度(4月～9月)	1575	145

(複数回受診しても、期間内で1回のみ集計)

3) 啓発活動

- ・市民公開講座 みんなで考えよう地域福祉～知って安心、てんかんのこと～

2018年3月10日に鳥取市総合福祉センターさざんか会館にて開催した。①てんかんってどんな病気？、②学校生活とてんかん、③当事者からのメッセージ、④仕事とてんかん、⑤地域福祉～県の取り組み～、の講演を行うと並行し、個別相談を行った。

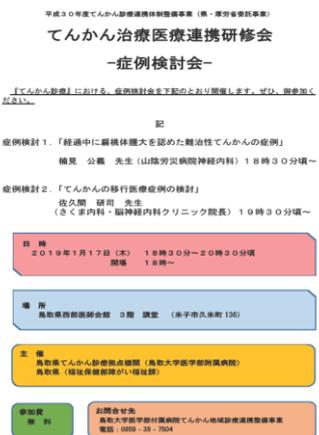
- ・ベーター150周年記念展・鳥取県障がい者アートコラボ展

世界有数のてんかんセンターがあり、医療福祉の先端を担っているベーターの150周年記念展を2018年7月2日から16日に鳥取大学医学部附属病院にて開催。当病院廊下にて、ベーターの歴史や活動の紹介、患者さんの作品、鳥取県の障がい者の方が描いた絵画約50点を展示した。また、鳥取県立厚生病院植田俊幸先生の講演「ベーターとは何か」、NPO法人あかり広場代表渡部恵子さんの講演「てんかんと共に生きる」の開催、障がい者団体の方等によるコンサートを開催し、てんかん患者・家族、一般の方、医療関係者等多くの方が参加された。



- ・患者・家族のためのてんかん講座～てんかんを知り、うまく付き合う～

2018年11月3日に静岡神経医療センターよりてんかん専門医と認定看護師を講師として開催した。当日、実施したアンケートについて、25名（鳥取県西部11名、鳥取県中部2名、鳥取県西部12名）の方から回答が得られた。MOSESや発作時の対応についてビデオを通して説明し評価が良かった。



4) てんかん治療医療連携研修会

2019年1月17日にてんかんの症例検討会を鳥取県西部医師会館にて開催した。6名の参加者があり、二次診療機関から提示された2題の症例について検討した。当初、東部、中部、西部の3地区で開催を検討したが、今年度は1地区のみでの実施に終わった。次年度は、他地区でも症例検討会の開催を行いたい。

5) 相談事業

てんかんコーディネーターはてんかん診療拠点機関の鳥取大学医学部附属病院内（脳神経小児科

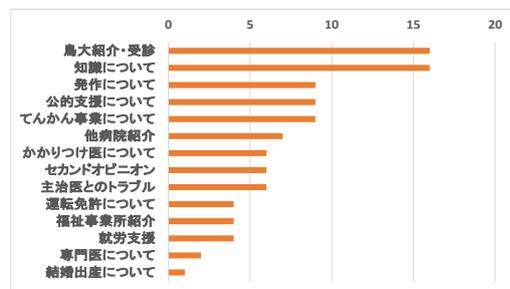
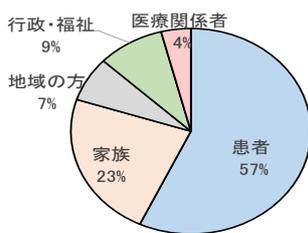
医局内)の相談室に在室している。2018年度は、前年度より1名減で2017年度から継続雇用のてんかんコーディネーター(看護師:脳神経内科クリニック勤務経験者)が担当している。勤務形態は非常勤(パートタイム)で、月・火・木・金曜日の13時～16時に勤務し、主に電話による相談業務を行っているが、希望があれば面談も行っている。相談事業のほかに、HPの活用や更新、ポスター、リーフレットを配布し相談窓口の情報を提供など、本事業の事務処理も行っている。

2018年4月～2019年1月までの相談件数は35件で、県外からの相談もあった。相談を受けた場合、その場で回答する場合もあるが、相談内容によっては医師や福祉機関と相談の上、回答することもあった。

相談者	件数	(複数選択あり)
家族本人による相談	7	(大阪1件)
家族による相談	10	
地域の方による相談	4	
医療従事者からの相談	1	
行政機関からの相談	2	

相談内容	件数	(複数選択あり)
セカンドオピニオン	1	(大阪1件)
転科について	1	
公的支援について	3	
運転免許について	1	
知識について	10	
かかりつけ医について	1	
医療機関紹介	4	
福祉事務所紹介	1	
就労支援	2	
医療関係者とのトラブル	2	
てんかん発作以外の症状について	2	
てんかん事業について	7	

	2016年度	2017年度	2018年度	計
てんかん相談	15	20	25	60
鳥大病院への紹介・受診	3	2	8	13
他医療機関への紹介	2	2	2	6
福祉事業所への紹介	3	1	1	5



・2016年5月～2019年1月までのてんかん相談を総括すると83件の相談があった。電話相談から鳥大病院受診、他病院からの紹介受診は最も多く今後も診療ネットワークの強化が必要で、また、一般的知識や発作、公的支援などの相談は多く、てんかんに関して気軽に相談できる身近な機関としての活用が期待されていた。

3. 成果と課題

・県内のてんかん診療を担う診療機関は増加し、また、一次診療機関や二次診療機関の情報をHP上に掲載されているため、誰でもが容易に閲覧し、検索できるようになった。

・県外からてんかん専門医や認定看護師など、多職種の講師による公開講座を開催し、また、てんかんの当事者や行政を交えた市民公開講座の開催、病院内でコンサートや講演の実施、などにより、充実した啓発活動が実施できた。今後、一般の医療関係者などを対象に充実した啓発活動を行う必要である。

・参加者は少数であったが、てんかんの症例検討会を開催でき、てんかん診療を担う連携が強まった。次年度以降は、東部、中部で開催し、顔が見える連携強化を図ることが重要である。

・てんかんコーディネーターによる相談事業について、てんかんセンターがないてんかん診療拠点機関に配置されているため、メリットやデメリットがある。経済的裏付けがないため、継続雇用の不安がある。しかし、相談件数や内容などが多様化し、今後、コーディネーターの教育・研修を充実させる必要がある。